

# STILL

on the border

—国境の町をめぐりつづける祖国の現在と未来—



## 会場一覧

### 京都会場

共催：同志社難民支援プロジェクトRe-ING  
日時：2月4日～9日(日～金)10:00～17:00  
会場：同志社大学 寒梅館地下1Fギャラリー  
地下鉄烏丸線「今出川」駅から徒歩1分

### 奈良会場

日時：2月11日・12日(日・月・祝)10:00～17:00  
会場：ギャラリーまつもり  
近鉄奈良駅から徒歩5分。  
東向き商店街をぬけ、もちいどのセンター街

### 大阪会場

共催：一般社団法人アジア図書館・  
アジアセンターをつくる会  
日時：2月20日～25日(火～日)10:00～17:00  
会場：アジア図書館 阪急淡路駅西出口前すぐ

### 神戸会場

共催：神戸学生青年センター  
日時：2月26日～3月3日(月～日)9:00～20:00  
＊最終日は17:00まで  
会場：神戸学生青年センターウエスト100  
3階展示室 阪急六甲駅より徒歩2分

## 画家

マウンマウンティン  
(Maung Maung Tinn)



### マウンマウンティンと水彩画

マウンマウンティンは幼少の頃から絵を描き始めた。もし色鉛筆を手に入れることができたなら、彼は何時間でも絵を描くことができた。彼が初めて正式な絵の訓練を受けたのは、ある夏休みの間だった。地元の芸術家から1か月間教わった水彩画の技法。後に芸術大学で学士号を取得してからも、それが彼の好む表現手段となっている。

人々の生活世界を緻密な筆致で描き出す彼の水彩画は、これまでにアメリカ、カナダ、スイス、イタリア、フランス、ベルギー、日本の7カ国で13回に渡り展示されてきた。

### 経歴

マウンマウンティンは、1969年にビルマ（ミャンマー）東部のカレン州に生まれる。大規模な民主化運動が政府からの弾圧による血祭りにつながった当時、経済的困窮とカレン族への差別から逃れるため1994年11月27日に家を出て隣国・タイを目指した。

1995年1月にタイのメーソットに到着し、医療従事者の訓練に参加。病院助手として移民・難民のために働く傍らで、彼は再び絵を描き始めた。現在は画家として、祖国やタイで苦しんでいる人々の為に日々絵を描いている。自分の絵画を他国に届けることは祖国の窮状を人々に知ってもらうための彼の方法であり、自身の絵へ寄せられた寄付は国境沿いの多くの貧しい家族のために宛てている。

彼の思いは常にビルマに向けられており、心は国境の向こう側で日常的に起こっている暴力、貧困、虐待に対する悲しみに満ちている。彼は、自身の貢献が海の中に落とす一滴に過ぎないことを知っている。それでも、より多くの人々がビルマの現状を認識し国際社会が変化することを願い、そして何よりも人々にビルマ難民のことを忘れないでほしいと訴え、筆を執っている。

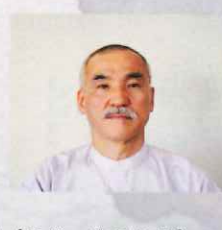
## 講演会

神戸会場最終日は根本さん、宇田さんをお招きし講演会を行います。

会場：神戸学生青年センター2階ホール  
日時：3月3日(日)14:00～16:30  
定員：50名(先着順。お申し込みは右QRコードより)



**根本敬（ねもと・けい）**  
上智大学名誉教授。専門はビルマ（ミャンマー）近現代史。  
著者に『抵抗と協力のはざま—近代ビルマ史のなかのイギリスと日本』（2010年、岩波書店）、『物語ビルマの歴史—王朝時代から現代まで』（2014年 中公新書）、『アウンサンスーチーのビルマ：民主化と国民和解への道』（2015年 岩波書店）、『つながるビルマ、つなげるビルマ：光と影と幻と』（2023年、彩流社）。ほかに単著、共著、論文など多数。ビルマ問題に関するメディアでの解説も多く、講演も積極的に引き受けている。



**宇田有三（うだ・ゆうそう）**  
1963年神戸市生まれ。関西在住のフォトジャーナリスト。中米の紛争地エルサルバドルの取材を皮切りに、東南アジアや中米諸国を中心に、軍事政権下の人びとの暮らし・先住民・世界の貧困などの取材を続ける。  
ミャンマー（ビルマ）へは1993年から毎年訪問（2021年はコロナ禍で渡緬せず）、計45回の継続取材を行う。  
著書に『ロヒンギャ 差別の深層』『観光コースでないミャンマー（ビルマ）』『閉ざされた国ビルマ』（以上、高文研）写真集に『Peoples in the Winds of change 1993-2012』（『ミャンマー（ビルマ） 変化に生きる人びと』）など。